

「学習会で本来の欲望を知る」

話をもとに戻しまして、この基準型学習会で教えていただいた総括の要領は、ほぼ現在の小冊子「森田理論学習の要点」に述べられている通りのものですが、簡潔でわかりやすく、自分を見つめ直すのに大変良かったと思います。

私の場合は、「症状を誘発するに至った人間性に対する誤った認識」としては、人によく思われたいという気持ちがいささか強くなり、また、人に嫌疑・誤解されるのを恐れる余り、人前で緊張したり、ふるえたり、赤面したりすることを強く恐れ、致命的な欠陥と想っていたのです。この気になる性格を何とかしたいと思い、不安を取り除いて安心立命を得たいというのが、間違いのもとだったのです。

「本来の欲望、願望」としては、人に良く思われたい、悪く思われたくないという心の底にある本心は、人に喜んでもらえる、世の中の役に立つ人間になることであることを、あらためて認識させていただきました。

外聞を気にし過ぎる傾向は強いのですが、本来の欲望、願望は、人に知られても知られなくても、少しでも多く、自分の存在を喜んでもらえる世界を拡げること、即ち多くの人の役に立つ便利な存在になること、これによって自分にも喜びが湧くものであることを痛感し、多少、人から馬鹿にされても、場合によっては誤解されることがあっても、尻軽く動いて、お役に立つことの多い人間になろうとの覚悟が次第にできてきました。そして、この学習会を通じて、また集談会を通じて、悩んでおられるかたがたを励まし、少しでも援助できる自分を、うれしく思いました。また本音で話し会える場を通じて、お互いが、人間性に対する理解を深め、相互に成長してゆくことができ、いくらでも勉強して高めあえることができるのです。新しいかたや、つらい人を励ましてあげながら、その人ががんばっておられるのを思って、自分も辛さを我慢し、励まされもするのです。

基準型学習会を終えてすぐの、昭和五十六年春には、S集談会の幹事に加えていただき、また次の基準型学習会の世話人もさせていただきました。そして、S集談会の幹事就任直後には代表幹事選ばれ、皆さまへのお世話をする側の人間として、弱音が吐けない立場になるころには、自分にふりかかってくるものには、たとえ災難であろうとも、それが避けられないものである限り、受けてゆかざるを得ない覚悟、受けて立つ覚悟が、次第にできてきたように思います。

ちょうどこのころ、神戸ポートアイランド博覧会・某グループ館の、短期間（最終の一カ月半の期間）の副館長の仕事で、当時総務課長代理だった私にまわってききました。支店長からこのお話をうかがったとき、以前なら、あれこれ考え躊躇するところを、「はい」と素直にひきうけさせていただき、グループ各社の寄り合い世帯で気をつかうことも多かったのですが、大変尻軽く働くことができ、解散式後、館のある人から、私の仕事ぶりが、最も爽やかだったと、ほめていただくことができました。

その直後の会社の人事異動の際、今度もだめだろうと思っていた課長待遇の参事に昇進させていただくこともできたのでした。